

ムーディーズによるフランスの格下げ

2015年9月24日

<1段階引き下げて「Aa2」へ>

米国の格付会社ムーディーズ・インベスターズ・サービス(以下、ムーディーズ)は、9月18日(現地、以下同様)、フランス国債の格付けを投資適格級で上から2番目の「Aa1」から「Aa2」に1段階引き下げました。格付け見直しについては、従来の「ネガティブ(弱含み)」から「ステーブル(安定的)」に変更しています。

ムーディーズは格下げの理由として、①フランス経済の中期的な成長見直しには、依然として脆弱性が残っており、②低成長と改革に向けた制度的・政治的課題により、2010年代中に政府債務の大規模な縮小を達成できる可能性が低いことを挙げています。

なお、格付会社S&P(スタンダード・アンド・プアーズ)やフィッチ・レーティングス(以下、フィッチ)では、すでにフランスの格付けをムーディーズと同等の「AA」相当としています。

各格付会社のフランス長期債務格付け

(2015年9月23日時点)

	自国通貨建て	外貨建て	見直し
ムーディーズ	Aa2	Aa2	安定的
S&P	AA	AA	ネガティブ
フィッチ	AA	AA	安定的

(出所)各種データを基に大和投資信託作成

<今後の見直し>

今回の格下げ後も、フランスを含む欧州の債券市場では大きな混乱は特段見られていません。また、S&Pではポルトガルの格付けを「BB」から「BB+」に1段階引き上げ、見直しをステーブル(安定的)としており、過去のようにはソブリン危機が再燃するとの悲観的な見方は後退しています。

フランスでは、「経済の機会均等・経済活動・成長のための法律」(通称「マクロン法」)が発効しており、商業施設の日曜・夜間営業や雇用維持協定などの規制緩和や、設備投資促進策などにより、回復が遅れている経済の活性化を目指す方向にあります。フランス政府からは、「実際の効果は2016年下半期に出始め、今後3年から5年で最大となる」との慎重な見方が示されていますが、構造改革が堅実に進められている点は評価材料と捉えられます。ムーディーズからも、公的部門の資金調達安定化に向けた努力や経済の競争力の維持に向けた取り組みが評価されており、フランスは「Aa2」の格付けに相当するだけの高い信用力を維持していると指摘されています。

以上

当資料のお取り扱いにおけるご注意

■当資料は、ファンドの状況や関連する情報等をお知らせするために大和投資信託により作成されたものであり、勧誘を目的としたものではありません。■当資料は、各種の信頼できると考えられる情報源から作成していますが、その正確性・完全性が保証されているものではありません。■当資料の中で記載されている内容、数値、図表、意見等は当資料作成時点のものであり、将来の成果を示唆・保証するものではなく、また今後予告なく変更されることがあります。■当資料中における運用実績等は、過去の実績および結果を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。販売会社等についてのお問い合わせ⇒大和投資信託 フリーダイヤル 0120-106212(営業日の9:00~17:00) HP <http://www.daiwa-am.co.jp/>